

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	ふくうら かずお 福浦 一男	所属・職名 京都大学大学院文学研究科 グローバル COE 研究員
e-mail		
発表題名 (英語)	Intrinsic Power and Collectivity: The Religious Practices of Spirit Mediums Who Worship the Spirit of the Chiang Mai City Pillar	
著者名	Kazuo Fukuura	
会議名 (英語)	The 11th International Conference on Thai Studies	
開催地(国、市)	Bangkok, Thailand	
参加期間	2011年 7月 26日 ~ 7月 28日	

「タイ研究国際会議」は、タイ研究に関する世界最大規模の国際学会であり、3年に一度開催される。"Vision of the Future" を統一テーマとする第11回は、タイのマヒドン大学を開催校として、バンコク都内のホテルで行われた。様々な国籍とディシプリンの研究者たちが一同に会し、3日間に渡って300件を超える研究発表とそれを受けた議論が展開された。



本発表は、3日目の午前、ウィスコンシン大学マディソン校のボウイ教授の司会により、5名の発表者からなる分科会" Spiritual Power & Society"にて行われた。本分科会における研究発表は、タイやタイ族の超自然的な力への信仰に関するものとなった。報告テーマは、子供の精霊「クマーン・トーン」に対する信仰、タイ社会における数字の吉凶観念、14世紀以前の東南アジアにおけるスリヤ信仰、中国のタイ族におけるトーテム崇拜であった。これらの多様な研究により、タイ社

会とタイ族におけるスピリチュアルな力の重要性が示されることになった。

今回私は、北タイ、チェンマイの職業的霊媒たちの集団での宗教実践の諸事例とその意義・重要性に関する発表を行った。彼らは年間を通じて集団儀礼を実践しており、発表題名の" Intrinsic Power" とは、霊媒たちが集合し、様々な儀礼を立ち上げる際に発現する力とその性質のことであり、" Collectivity" とは、霊媒たちの宗教実践の形式性を示している。本分科会は、5名の発表者が続けて発表を行い、その後全体を通じた質疑応答が行われるという流れになった。多方面からの活発な議論が繰り広げられ、タイのスピリチュアルな力に関する新たな知見を得ることができた。今回この発表を通して、霊媒たちの集団儀礼とそれを取り巻く一般社会との相互作用に関する貴重な意見交換をすることができた。当日行われた議論を基に、本研究をさらに発展させ、英語論文として発表することとしたい。